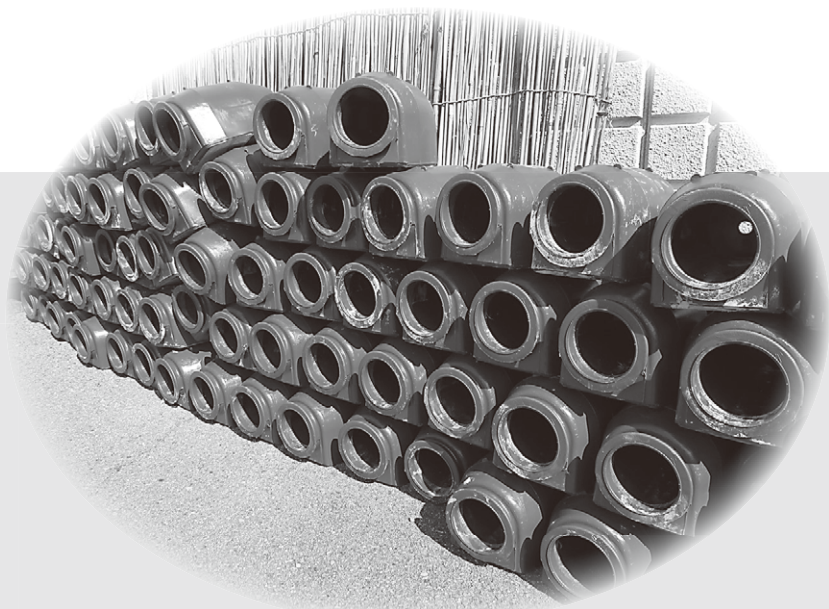


特集

宇野議員・村上議員が聞く

芸南漁業協同組合



▲たこつぼ



芸南漁協で主に漁獲されている魚種や水産物にはどのようなものがあり、漁獲量や販売収入等はどのように推移していますか

芸南漁協では、真鯛を中心にチヌ、キジハタ、タモリ、オコゼ、ヒラメ、エビ類など多彩な魚種が水揚げされています。漁獲は年ごとの天候に左右され、エビ類は雨が多い年に豊漁、少ない年は不漁となります。今年は真鯛やキジハタ・タモリなどが好調でした。

一方、ヒラメやアナゴは大きく減少し、かつては1日15〜20kgあった水揚げが、今では数枚程度にとどまっています。

資源を守るため、広島県漁業振興基金では年間約27万匹の真鯛をはじめ、キジハタやオコゼの育成・放流を行っており、この取組が安定した漁獲、資源維持に一定の成果をあげています。



◀海ぶどう



芸南漁業協同組合
福本 悟さん

Q 現在の組合員数について教えてください

准組合員を含む総数は35名(准組合員9名、正組合員26名)。牡蠣業は若手や外国人労働者も多いが、魚類業は高齢化しており、50代から70代が多いです。

今後「20人」を切らないよう、若い人材も含め人数を増やしていきたいです。

Q 海水温の上昇や藻場の減少など、漁場環境の変化をどのように感じていますか

近年、環境変化の影響は非常に大きいと感じています。

特に、水温は昔より高くなっており、わずか1〜2度の違いで魚卵が孵化しなかったり、稚魚が育たなかったりするなど、海の生態系に深刻な影響を及ぼしています。

今年は一部で藻場が復活し、回復の兆しも見られましたが、海全体としては栄養源が減少し、「痩せた海」になってきています。

その背景には、山から流れ込む水が極端に浄化されていることや、排水の影響でプランクトンが十分に育たなくなっていることが考えられ、強い懸念を抱いています。

Q 市民や子どもたちに漁業や海の魅力を知ってもらうために、どのように取り組んでいますか

毎年、忠海学園の5年生を対象に、漁業や海ぶどうを学ぶ体験学習を行っています。

今後は郷土産業振興館など地域の施設とも連携し、市内の子どもたちに魚のさばき方や料理教室などを体験していただいて、子どもたちに海や漁業に親しみを持ってもらえるよう取り組んでいきたいです。



▲竹原市近郊で獲れた鮮魚

Q 竹原市への要望はありますか

来年は飼料代のさらなる高騰が見込まれており、他の市町では助成金を増額する動きもあります。竹原市へ、そうした動きに合わせた支援を要望したいです。

また、何よりも、市民の皆さまに地元の海の幸をおいしく食べていただくことが漁業者の励みとなり、漁業を支える大きな力になります。

皆さまに食べていただくことが私たちのやりがいとなり、漁業を守り続ける力になります。ぜひ、魚を食べて応援してください。



▲芸南漁業協同組合